

「名張市 まち・ひと・しごと創生 総合戦略」

の取組について

—目次—

1. はじめに	P 2
2. 「名張市 まち・ひと・しごと創生 総合戦略」の概要	P 2
(1) 総合戦略の位置付け	P 2
(2) 計画期間	P 2
(3) 基本的な考え方	P 2
(4) 3つの重点プロジェクト	P 3
3. 取組の効果検証	P 3
4. 平成28年度「名張市 まち・ひと・しごと創生 総合戦略」の取組概要（実績）	P 4
(1) 元気創造プロジェクト	P 4
(2) 若者定住促進プロジェクト	P 8
(3) 生涯現役プロジェクト	P 14
《資料》平成28年度 地方創生関連交付金事業一覧	P 18
《資料》人口等の動き	P 20
5. 「名張市 まち・ひと・しごと創生 総合戦略」の効果検証の取組	P 23
(1) 市民意識調査の実施	P 23
(2) 名張市地域活力創生会議での意見聴取	P 24
6. 平成29年度「名張市 まち・ひと・しごと創生 総合戦略」の取組概要（計画）	P 26
(1) 元気創造プロジェクト	P 26
(2) 若者定住促進プロジェクト	P 27
(3) 生涯現役プロジェクト	P 28
7. 「名張市 まち・ひと・しごと創生 総合戦略」の改訂	P 29

名 張 市

平成29年8月

1. はじめに

国においては、少子高齢化等により今後ますます加速化することが予想される人口の減少と、そのことに伴う消費・経済力の低下といった課題の解決に向け、平成26年11月に「まち・ひと・しごと創生法」を制定するとともに、合わせてその具体的な施策をまとめた「総合戦略」を策定しました。

こうした中、本市においても市民や市内の関係団体や企業など、多くの皆様のご意見をお聞きしながら、平成27年8月に「名張市 まち・ひと・しごと創生 総合戦略」を策定し、地方創生と人口減少の克服に向け、“元気創造” “若者定住促進” “生涯現役” の3つの重点プロジェクトに基づく各種施策を推進してきました。

取組にあたっては、国の地方創生関連交付金をはじめとする様々な財源を効果的に活用し、市民の皆様との協働により幅広い分野での施策推進に努めてきました。

2. 「名張市 まち・ひと・しごと創生 総合戦略」の概要

(1) 総合戦略の位置付け

人口減少・超高齢時代に立ち向かい地域の活力を創生していくため、平成28年度を始期とする本市の最上位計画である名張市総合計画「新・理想郷プラン」に示された3つの重点戦略を「名張市 まち・ひと・しごと創生 総合戦略」の柱に据え、名張市総合計画「新・理想郷プラン」と連動して効果的な施策展開を図ることとしています。

(2) 計画期間

国の総合戦略を勘案しつつ、効果の高い施策を集中的に実施していく観点から、対象期間は、2015(平成27)年度から2019(平成31)年度までの5年間とします。

(3) 基本的な考え方

- ・ 20歳代の転出抑制と30歳代の転入促進
- ・ 2040(平成52)年において定住人口70,000人を目指す。
- ・ 交流人口(★)の更なる拡大を図る。

(★)交流人口: 交流人口とは、定住人口に対する概念として、市外から何らかの目的で訪れる人口のことで、通勤・通学、観光、ショッピング、レジャー、スポーツ、アミューズメントなど幅広い訪問動機を含みます。

(4) 3つの重点プロジェクト

「名張市 まち・ひと・しごと創生 総合戦略」においては、“元気創造” “若者定住促進” “生涯現役” の3つのプロジェクトを柱に次の取組を横断的・多面的かつ一体的に進めることとしています。

重点プロジェクト	各プロジェクト内の取組項目
(1) 元気創造プロジェクト	① なばり元気のモトづくり ～人材を磨き、地域資源を生かし、もの・仕事をつくり、名張を元気にする～
	② 多様な世代の転入促進を図る情報の発信
	③ 「訪れてよし」「住んでよし」「招いてよし」の観光都市 名張の実現
(2) 若者定住促進プロジェクト	① 産み育てるにやさしいまち”なばり”の実現
	② ライフスタイルの多様化を踏まえた暮らしの提供
	③ 「なばりブランド」としての“ひと”づくり ～魅力ある教育の推進～
(3) 生涯現役プロジェクト	① 「ともに生き ともに創る 心ふれあう幸せのまち 名張」の実現
	② 時代に合った地域づくり、安心・安全な暮らしを守る
	③ 「ライフステージに応じた支援ができるまち」の実現

3. 取組の効果検証

「名張市 まち・ひと・しごと創生 総合戦略」は、市庁内での内部評価とともに、市民2,000人を対象に行うアンケート調査のほか、民産学官金労言の分野における外部委員で組織する「名張市地域活力創生会議」や市議会での意見などを踏まえながら、重要業績評価指標(KPI)(★)の達成状況を基にした客観的な評価による進捗把握を行うとともに、今後の施策展開や取組の改善につなげていくこととしています。

「名張市地域活力創生会議」は、住民をはじめ、産業界や教育機関、金融機関、労働団体、メディア関係者で構成しており、様々な観点から今後の施策展開の方向性や具体的な取組について意見が反映されるようにしています。

効果検証の結果は、市ホームページ等により市民の皆さんに公表します。

(★)重要業績評価指標(KPI) :Key Performance Indicator の略称。施策ごとの進捗状況を検証するために設定する指標をいう。なお、本戦略内の重要業績評価指標(KPI)の「基準値」は、平成27年5月中旬時点での直近の値を設定し、目標値は、計画期間終了年度の平成31年度を最終期限とし、総合計画や個別事業計画で設定する目標値・目標年度を加味し、設定しています。

4. 平成28年度「名張市 まち・ひと・しごと創生 総合戦略」の取組概要（実績）

（1）元気創造プロジェクト

《基本目標》

新たな産業や雇用の創出により、地域経済の活性化を目指した取組を推進するとともに、地域の元気を支え、将来を担う人材の育成に取り組みます。そして、市民とひとつになって様々な取組を続ける名張の元気で活力を全国に発信し、人や企業から選ばれる、活気に満ちたまちの実現を目指した取組を進めます。

数値目標	基準値(年度)	平成27年度実績	平成28年度実績	目標値(目標年度)
働く意欲のある人にいきいきと働ける場が確保されていると思う市民の割合	26.6% (H25)	↑ 29.2%	↓ 26.8%	31.0% (H30)

① なばり元気のモトづくり ～人材を磨き、地域資源を生かし、もの・仕事をつくり、名張を元気にする～

【具体的な施策（計画内容）】

- (ア) 地域産品・地域資源を活用した新商品の開発や名張ブランド商品の販路拡大、就業機会の確保など雇用創出と地域経済の活性化
- (イ) 民産学官の連携による事業者の多角経営や経営革新の促進等による地場産業活性化
- (ウ) 農業の「多彩な担い手」づくりをはじめ、若者たちの起業の場づくり、退職者等の専門性を生かした小規模事業の展開
- (エ) 地域農業の未来を描く「人・農地プラン」の策定促進、農林業の6次産業化、「農」が持つ機能を生かした他分野（環境・福祉・教育等）との連携



【平成28年度に実施した施策を推進する主な事業と取組概要】 ※事業名の()内は平成28年度事業費

【地場産業振興事業[名張市若者移住・定住チャレンジ支援事業] (475万円)】

- 若者の起業・創業や、それに伴う空家の活用を促進するための補助金を交付し、2件の採択を行いました。また、2件ともに市外からの移住者によるもので、さらには空家を活用いただいたことにより、移住促進と空家の有効活用にも貢献できました。

【隠(なばり)の農産物を活用した起業・創業支援事業 (2,147万円) ※地方創生加速化交付金】

- 地元の野菜やぶどう、いちごを使った加工品（7品目14商品）を開発しました。また、各種物産展への出展、都市圏での試食会、テストマーケティングを行い、新商品を含めた地元物産の販路拡大にも取り組みました。
- 6次産業の振興のため、農産品の加工と販路の開拓を行う事業者設立の取組を進め、平成29年4月には、旧滝之原小学校給食室を改修した「隠タカラモノ農産加工所」が法人運営により開業しました。

【実践型地域雇用創造事業 (1,600万円)】

- 人材育成等セミナーを107回実施し、延べ1,993名に参加いただきました。
- 新たな雇用創出に向けた就職面接会を2回実施し、359名に参加いただきました。

○企業向けの多角経営セミナーや経営革新セミナーを33回実施し、138社の企業に参加をいただきました。さらには、民産学金官の連携による、技術相談や共同研究、人材育成など産業支援の取組により、地場産業の活性化を図りました。

○耕作放棄地の活用と農業の多彩な担い手育成を目的に、農業参入セミナー「自然栽培で農業をはじめよう講座」を12回実施し、207名のみなさんに参加をいただきました。

【新雇用創出事業（462万円）※地方創生推進交付金】

○雇用創出に向けた新たな産業を育成するための基礎調査と、市内直売所の売り上げ分析等を実施しました。

○名張の特産品「かたやき」を活用して、高校生との共同企画によりお菓子の商品開発を行いました。また「食べてだあこ名張のお菓子おもてなし条例」制定にちなんだおもてなしイベントへ、地元企業と高校生による共同企画商品を提供しました。

【青年就農給付金事業（900万円）】

○就農前の研修期間及び経営が不安定な就農直後に財政支援を行う事で経済的負担の軽減に努め、新規就農の促進に取り組みました。6件の給付をしました。

<その他関連事業>

- ・障害者アグリ雇用推進事業(76万円)
- ・地場産業雇用促進・人材育成事業(9万円)
- ・農地集積協力金交付事業(265万円)
- ・農業経営基盤強化資金利子補給金事業(64万円)
- ・中山間地域等直接支払事業(1,372万円)
- ・人・農地問題解決推進事業(124万円)

【重要業績評価指標（KPI）指標】

重要業績評価指標（KPI）	基準値(年度)	平成27年度実績	平成28年度実績	目標値(目標年度)
実践型地域雇用創造事業活用による雇用創出件数	55件 ^(H26)	↑ 延べ155件	↑ 延べ230件	延べ195件 ^(H28)
新商品・新技術の開発研究件数	10件 ^(H26)	↑ 延べ20件	↑ 延べ31件	延べ32件 ^(H31)
創業相談件数	22件 ^(H26)	↑ 延べ64件	↑ 延べ120件	延べ340件 ^(H30)
認定農業者数	51人 ^(H26)	↑ 延べ99人	↑ 延べ140人	延べ265人 ^(H30)

② 多様な世代の転入促進を図る情報の発信

【具体的な施策（計画内容）】

- (ア) 県が東京都内に設置する「ええとこやんか三重 移住相談センター」や県関西事務所などと連携した転入促進を図る就労情報・空き家情報等の一元的な情報発信
- (イ) 交通事業者・不動産事業者・旅行会社・メディア等と連携したシティプロモーション



【平成28年度に実施した施策を推進する主な事業と取組概要】 ※事業名の()内は平成28年度事業費

【「ええとこやんか三重」県と市町の移住促進事業（134万円）※地方創生加速化交付金】

- 6月に「移住・定住ホットライン」を開設し、移住・定住に関するワンストップでの相談体制を整えました。対応にあたっては、住まい探しや仕事探しなど、移住者の様々なニーズに対応するため、「名張市移住・定住支援ネットワーク会議」の開催を通じ、関係機関や団体などとの連携により取組を進めてきました。また、都心部で開催される移住フェアに計8回参加して、出先での相談対応にも取り組みました。
- 移住・定住促進専門のウェブサイト「なばりの素敵！発見WEB」の充実や、移住・定住促進リーフレット「暮らしのまち名張」を制作、さらには近鉄大阪難波駅構内への大型電光ポスターの掲示、イベントへの出展などを通じて、本市の魅力発信に取り組みました。
- 市民が行う市外からの移住促進や若者の地元定着を促進するための取組に対し、その費用の一部を名張市が補助する提案公募型事業を実施しました。名張商工会議所が行う婚活事業「なばコン～名張でまち婚 in アスピア～」と、特定非営利活動法人あぐりの杜が運営する移住支援サイト「トカイナカ なばり」の開設の2事業に対し補助を行いました。

<その他関連事業>

- ・総合戦略推進事業(21万円)
- ・広報活動事業(1,807万円)

【重要業績評価指標（KPI）指標】

重要業績評価指標（KPI）	基準値(年度)	平成27年度実績	平成28年度実績	目標値(目標年度)
移住相談窓口体制の整備	設置 (H27)	設置	継続	継続(H31)
シティプロモーション活動	— (H26)	0回	↑ 11回	延べ15回(H31)
市の移住等に関するホームページへの1カ月あたりの平均アクセス件数	— (H26)	316件	↑ 476件	350件(H30)

③「訪れてよし」「住んでよし」「招いてよし」の観光都市 名張の実現

【具体的な施策（計画内容）】

- (ア) 食・歴史・文化など地域に根ざした資源を活用する観光戦略の推進
- (イ) 三重県や周辺自治体と連携した国際的な視野での滞在型観光の取組



【平成28年度に実施した施策を推進する主な事業と取組概要】 ※事業名の()内は平成28年度事業費

【観光戦略推進事業（1,000万円）】

- 地元事業者及び高校・大学等と連携し、旅行企画コンテスト及びモニターツアーを実施しました。また、歴史街道倶楽部主催の「歴史のまちウォーク」を名張市観光協会及びボランティアガイド「おきつも」と共催するなど、旅行商品の造成と観光客の誘致を進めました。
- 平成27年度に整備したトレッキングルート、修験の道「長坂山ルート」について、登山専門誌「山と溪谷社」にWEBページで特集を掲載いただくなど、積極的な情報発信を行い、多くのハイカーに登山いただきました。
- G7伊勢志摩サミットでは、名張の米・肉・酒が首脳陣に振る舞われるなどし、名張の「ものづくり」が世界的にも注目される機会になりました。

【広域観光連携推進事業（243万円）※地方創生推進交付金】

- 広域観光による外国人誘客の取組として、平成29年3月に在日の外国人を対象としたモニターツアーを実施し、45人に参加をいただきました。
- 旅行業経験者及び外国人（外国語指導助手経験者）を職員として雇用し、観光資源の調査と情報発信に努めました。そして、平成29年3月に、名張市と奈良県宇陀市、曾爾村、御杖村による広域連携DMO「東奈良名張ツーリズム・マーケティング」を設立し、誘客に向けた体制整備を行いました。

<その他関連事業>

- ・広域観光事業（75万円）

【重要業績評価指標（KPI）指標】

重要業績評価指標（KPI）	基準値(年度)	平成27年度実績	平成28年度実績	目標値(目標年度)
観光レクリエーション入込客数	112.5万人 (H26)	↑延べ237.4万人	↑延べ362.9万人	延べ750.0万人 (H30)
赤目四十八滝溪谷を訪れた外国人の数	1,780人 (H26)	↑延べ5,082人	↑延べ8,324人	延べ10,000人 (H30)

(2) 若者定住促進プロジェクト

《基本目標》

若い世代が安心して働き、結婚・妊娠・出産・子育て・教育がしやすい環境の整備に切れ目なく取り組むとともに、暮らしのベースとなる住宅支援や、多彩な雇用の創出などの施策を推進し、若者が住んでみたい、愛着を抱きいつまでも住み続けたいと感じるまちを目指した取組を進めます。

数値目標	基準値(年度)	平成27年度実績	平成28年度実績	目標値(目標年度)
名張市に「ずっと住み続けたい」「当分の間住み続けたい」「市内の別の地区に移りたい」とする 30～39歳の市民の割合	82.3% (H25)	↑ 88.4%	↓ 82.6%	86.0% (H30)
市内の保育施設や子育てサービス、相談窓口等の子育て支援施策に満足している市民の割合	59.8% (H25)	↓ 53.6%	↓ 53.1%	63.0% (H30)

①産み育てるにやさしいまち” なばり” の実現

【具体的な施策（計画内容）】

- (ア) 「子育て世代包括支援センター」の立ち上げなど、名張版ネウボラの更なる充実
- (イ) 子ども・子育て支援新制度の創設にあわせた待機児童をつくらない環境づくり、自然環境を生かした教育・保育の実施
- (ウ) 安心して子どもを産むことができる医療環境の整備をはじめ、小児二次救急を行う小児救急医療センターの運営、県内医療機関や奈良県など隣接する医療機関との広域的な地域医療の連携強化
- (エ) ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた取組推進



【平成28年度に実施した施策を推進する主な事業と取組概要】 ※事業名の()内は平成28年度事業費

【名張版ネウボラ事業（254万円）】

○医療機関・助産師会との連携により、産婦乳腺炎予防ケア事業やおっぱい相談等の『産後ケア』について、産後早期からの利用者の増加がみられました。

【保育所費（5,825万円）】

【地域型保育事業（民間・家庭的・事業所内・小規模）（13億8,251万円）】

【小規模保育改修等事業補助金（5,189万円）】

○待機児童対策として、地域型保育事業の推進及び民間保育所の整備により、0～2歳児を対象とした94名分の保育の受け皿を拡大し、多様な働き方を支える保育の充実を図りました。

○保育士・幼稚園教諭の就職フェアを開催し、潜在保育士の掘り起こしなどによって、6名の方を参加法人が運営する保育所・幼稚園への就職に結びました。

【放課後児童クラブ待機児童解消事業（638万円）※地方創生推進交付金】

○待機児童対策と女性の働きやすい環境づくりに向け、桔梗が丘小学校校区放課後児童クラブの施設増設を行いました。

【地域福祉人材育成促進事業（400万円）※地方創生推進交付金】

○女性の働きやすい環境づくり、意欲のある高齢者、女性等の社会参加につながる活動への支援を
 するため、こども支援センターと社会福祉協議会とが連携して、子育て支援員の養成等の事業（研修
 会、託児実習）を実施することができるよう福祉まちづくりセンターの設備等の整備を行うととも
 に、子育てをはじめ様々な活動を行うボランティアに係る総合的な情報発信及び子育て支援員研修
 修了者、子育てサークル等活動の場の提供などの支援に取り組みました。

【こども支援センター事業（342万円）】

○子育て支援員研修を実施し、132人に参加いただきました。支援者の育成や新たな支援者を創出
 に加えて、修了証を受けた60人のうち27人を子育て支援に係る就労に繋ぐなど、身近な所での
 寄り添いが叶う環境の整備を推進しました。

【医療体制推進寄附講座開設事業（4,850万円）】

○伊賀地域における小児医療の拠点施設として市民が安心して子育てが行えるよう24時間365日
 の小児二次救急を担う「小児救急医療センター」の継続運営を行いました。

【その他】

平成31年度の産婦人科開設に向け、そのための検討・準備を進めました。

<その他関連事業>

- ・病児・病後児保育事業(670万円)
- ・子ども発達支援推進事業(120万円)
- ・妊産婦、乳児の疾病予防応援事業(1,073万円)
- ・第3子以降の保育料無償化事業(5,448万円)
- ・特定不妊治療費等補助事業(240万円)
- ・こんにちは赤ちゃん事業(24万円)
- ・子ども医療助成事業(2億982万円)
- ・なばり出逢い創造事業(50万円)
- ・病院群輪番制病院運営事業(5,582万円)
- ・医療体制推進事業(424万円)

【重要業績評価指標（KPI）指標】

重要業績評価指標（KPI）	基準値(年度)	平成27年度実績	平成28年度実績	目標値(目標年度)
妊産婦・乳幼児への支援策に満足している市民の割合	50.9% (H26)	↓ 48.9%	↓ 45.8%	53.4% (H30)
保育需要に対応する受入定員の増加	1,455人 (H25)	↑ 1,542人	↑ 1,604人	1,632人 (H31)
地域医療機関での現在の医療体制に満足している市民の割合	48.0% (H25)	↑ 48.6%	↑ 52.9%	50.5% (H30)
男女の固定的な役割分担に同感しないという市民の割合	76.9% (H25)	↓ 75.7%	↑ 77.7%	80.0% (H30)

②ライフスタイルの多様化を踏まえた暮らしの提供

【具体的な施策（計画内容）】

- (ア) 空き家の有効活用による“わが街リフレッシュプロジェクト”
- (イ) クラインガルテン(滞在型市民農園)など“農のある暮らし(スローライフ・スローフード)”の企画・提供、「お試し居住」・「2地域居住」の企画・促進
- (ウ) 都市の「食(カフェ、レストラン、料理人等)」と、名張産の「農(伊賀米、伊賀肉、名張産農産物等)」をつなぐ連携・交流の企画・促進



【平成28年度に実施した施策を推進する主な事業と取組概要】 ※事業名の()内は平成28年度事業費

【空家対策事業(237万円)】

○6月に「空き家バンク」を創設し、空き家等の活用及び流通を図りました。平成28年度は26件の物件登録があり、うち7件が成約しました。また、利用者の登録も28人ありました。

【空家リノベーション支援事業(146万円)】

○平成27年度に引き続き、県外からの移住者に対する中古住宅のリフォーム費用の補助(経費の3分の1以内・上限100万円)を実施し、2組・3人の移住支援を行いました。

【先駆的空家対策モデル事業(351万円)】

○空き家の実態調査結果を基に分析を行い、10年後に空き家が多く、かつ活用促進が期待できる地域を空家等利活用促進地域として選定しました。(既存住宅地から名張地域、住宅開発地から桔梗が丘地域、農村・山間集落から赤目地域)平成29年度からは地域と民間事業者等、市が連携して若年層の移住定住に取り組んでいきます。

【農地銀行農地移動適正化事業(2万円)】

○農地の権利を取得する下限面積について、40aから30a(ほ場整備済農地)又は10a(ほ場整備済農地以外の農地)に引き下げ、農地の集約支援や新規就農の促進を図るための条件整備を進めました。

【市民農園運営・整備事業(80万円)】

【農業研修センター管理費(110万円)】

○市民農園の運営を継続的に行うとともに、市民親子体験農業(サツマイモづくり)や田舎の味おばあちゃん講座(こんにゃくづくり、みそづくり、手打ちそばづくり)等を開催し、住宅地住民(消費者)と農業者(生産者)との交流を図りました。

<その他関連事業>

・実践型地域雇用創造事業(1,600万円)

・ふるさと応援推進事業(1,723万円)

【重要業績評価指標（KPI）指標】

重要業績評価指標（KPI）	基準値(年度)	平成27年度実績	平成28年度実績	目標値(目標年度)
国・県事業を活用した空き家住宅の流通促進	1件 ^(H26)	↗ 延べ14件	↗ 延べ16件	延べ30件 ^(H31)
青年就農給付件数	5件 ^(H26)	↗ 延べ10件	↗ 延べ16件	延べ30件 ^(H31)
文化・物産等の地域間交流への参加回数	8回 ^(H26)	↗ 延べ16回	↗ 延べ21回	延べ48回 ^(H31)

③「なばりブランド」としての“ひと”づくり ～魅力ある教育の推進～

【具体的な施策（計画内容）】

- (ア) 教育の質の向上に向けた幼児期、小学校、中学校の連続性、系統性を大切にした小中一貫教育の実施
- (イ) 持続可能なまちづくりの視点に立ち郷土愛を育む「なばり学」の創設
- (ウ) 家庭(保護者)・地域が学校運営に関わる「名張版 コミュニティスクール」の展開や未来へつなぐ学びの機会を支援する生涯学習の拠点づくり、“ひと”づくり
- (エ) 市内中学校、工学系高等教育機関・県立高校、企業等との連携体制構築による人材の定着促進の仕組みづくり



【平成28年度に実施した施策を推進する主な事業と取組概要】 ※事業名の()内は平成28年度事業費

【小中一貫教育推進事業（95万円）】

- 平成27年度に引き続き、研究推進校（つつじが丘小学校・南中学校）において調査研究を進めるとともに、「小中一貫英語教育カリキュラム」（試行版）の実践・検証を進めました。また、「小中一貫教育だより」を発行し、小中一貫教育について保護者・地域住民への情報発信に努めました。

【ふるさと学習「なばり学」創設事業（191万円）※地方創生推進交付金】

- 『ふるさと学習「なばり学」』学習資料集編集委員会を立ち上げ、学習資料集上・下巻の第1稿を作成しました。

【コミュニティ・スクール導入促進事業（77万円）】

- 「名張市コミュニティ・スクール推進協議会」を組織するとともに、文部科学省の「コミュニティ・スクール導入等促進事業」を活用し、研究推進校（つつじが丘小学校・南中学校）に学校運営協議会を置く準備を行いました。

【中学生地域ふれあい事業（83万円）】

- 子どもたちが望ましい職業観・勤労観を身につけるために、中学生を対象にした職場体験活動を、地域づくり組織や企業、関係機関の協力により実施しました。

【小学校教育振興費（56万円）】

【教育研究事業（495万円）】

- 教育センター主催の週末教育事業や、ぱりっ子チャレンジ教室・ぱりっ子わくわくキャンプ等に、近畿大学工業高等専門学校や名張市看護専門学校と連携し、学生教育サポーターとして延べ100人程度の学生に協力いただき実施しました。

【新雇用創出事業（462万円）※地方創生推進交付金（再掲）】

- 雇用創出に向けた新たな産業を育成するための基礎調査と、市内直売所の売り上げ分析等を実施しました。
- 名張の特産品「かたやき」を活用して、高校生との共同企画によりお菓子の商品開発を行いました。また「食べてだあこ名張のお菓子おもてなし条例」制定にちなんだおもてなしイベントへ、地元企業と高校生による共同企画商品を提供しました。

<その他関連事業>

- ・発達障害早期支援研究事業 (718 万円)
- ・基礎学力向上支援事業(36 万円)
- ・小・中学校 ALT(外国語指導助手)派遣事業(2,210 万円)
- ・「総合的な学習」推進事業(72 万円)
- ・生涯学習推進事業(12 万円)
- ・学校支援地域本部事業(226 万円)

【重要業績評価指標（KPI）指標】

重要業績評価指標（KPI）		基準値(年度)	平成27年度実績	平成28年度実績	目標値(目標年度)
小中学校の教育環境に満足している市民の割合		60.8% (H25)	↓ 55.4%	↑ 56.2%	65.0% (H30)
住んでいる地域の行事に「参加している、どちらかといえば参加している」とする児童生徒の割合	小学校	66.1% (H26)	↑ 68.8%	↓ 66.1%	68.0% (H30)
	中学校	45.1% (H26)	↓ 44.2%	↑ 44.5%	47.0% (H30)
目的を持って生涯学習に取り組んでいる市民の割合		42.8% (H25)	↓ 41.6%	↑ 45.1%	46.0% (H30)
人材の定着促進に向けた教育機関・企業等との連携体制		体制構築、継続運用 (H27～31)			

(3) 生涯現役プロジェクト

《基本目標》

高齢者はもとより、これから年齢を重ねていく全ての方々が社会の中で意欲的に自らの知識や能力を発揮し、いつまでも健康で生きがいをもって、地域社会の担い手として活躍できるまちを目指した取組を進めます。

数値目標	基準値(年度)	平成27年度実績	平成28年度実績	目標値(目標年度)
健康な暮らしを送っていると感じている市民の割合	81.4%(H25)	79.7%	78.8%	83.0%(H30)

①「ともに生き ともに創る 心ふれあう幸せのまち 名張」の実現

【具体的な施策（計画内容）】

(ア) 高齢化・単身化を地域全体で受け止める地域包括ケアの構築（地域ぐるみで行う介護予防の体制づくり、サービス提供）に加え、地域包括ケアシステムを基本に各種相談に対してワンストップで対応する「地域福祉教育総合支援システム」の取組推進
（地域ぐるみで行う介護予防の体制づくり、サービス提供）

(イ) ばりばり現役プロジェクト事業（生活習慣病予防重点プロジェクト）をはじめとする「健康なばり21計画（★）」の取組推進

（★）健康なばり21計画：「健康寿命の延伸と健康格差の縮小」や「生活習慣病の発生子防と重症化予防」などを目指し、市民自らの健康づくりを中心に、地域づくり組織の自治力、地域支えあい等の仕組みを生かし、学校保健、産業保健との連携を図りながら健康づくりを推進する計画。



【平成28年度に実施した施策を推進する主な事業と取組概要】 ※事業名の()内は平成28年度事業費

【地域福祉教育総合支援システム構築事業（249万円）】

○地域包括ケアシステムを基本に、複合的な生活課題を抱える対象者の相談に対してワンストップで対応するため、地域包括支援センターにエリアディレクターを3名配置し、庁内及び関係機関とのネットワーク強化を図り、福祉や子育て、教育等の包括的支援体制として「地域福祉教育総合支援システム」をスタートしました。

10月に関係機関・関係団体による「エリアネットワーク会議」を開催し、翌11月に開催した「名張市地域福祉教育総合支援システム キックオフ大会」を機に、以降、複合的な課題を抱える事案に対し、17回のエリア会議を開催し解決に向け取り組みました。

【国保ヘルスアップ事業（827万円）】

【健康づくり事業（293万円）】

○地域の元気づくり・人づくりの担い手「まちじゅう元気!!リーダー」（全15地域 登録数約300名）へのフォローアップ研修を実施し、地域づくり組織との協働による「まちじゅう元気!!プロジェクト」のさらなる推進に取り組みました。

○地域保健、学校保健、職域保健との連携を強化し、一生涯を通じた切れ目ない健康づくりの推進をめざす「まちじゅう元気推進都市宣言」を行いました。

○市民の健康意識を高め健康づくりの習慣化に向けて、健康増進につながる取組やイベントへの参加

に対してポイント（マイレージ）を付与・還元する仕組みをつくり、10月から試行運用を開始しました。75名の応募がありました。

【生活習慣病予防重点プロジェクト事業（837万円）】

○三重大学との協働で市民公開講座を開催し、心臓マッサージ講習（参加72名）や循環器専門医、がん治療の専門医による講演（参加約200名）、まちじゅう元気!!リーダーによる体操の実践、食生活改善推進協議会との協働による「減塩・バランス食メニュー」の試食提供を行いました。

○学校保健との連携により、生活習慣病・がん予防に関する授業を実施し、若い世代からの健康づくりに取り組みました。

<その他関連事業>

- ・がん対策事業(1億119万円)
- ・在宅医療・介護連携推進事業(750万円)
- ・総合型地域スポーツクラブ創設支援事業(209万円)
- ・地域づくり組織支え合い活動補助金(210万円)
- ・介護予防サービス事業(1,487万円)
- ・軽度生活援助事業(263万円)
- ・市民陸上競技場改修事業(4億2,501万円)

【重要業績評価指標（KPI）指標】

重要業績評価指標（KPI）	基準値(年度)	平成27年度実績	平成28年度実績	目標値(目標年度)
生きがいを感じながら、安心して暮らしている高齢者の割合	77.9% (H25)	↓ 77.7%	↑ 78.4%	80.5% (H30)
名張市国民健康保険被保険者の特定健康診査受診率	35.3% (H25)	↑ 37.7%	↑ 39.0%	45.0% (H30)

②時代に合った地域づくり、安心・安全な暮らしを守る

【具体的な施策（計画内容）】

- (ア) まちづくり活動への参画促進、人材育成を図る取組、地域づくり活動と市民公益活動の相互連携・協働の拡大等による地域力の更なる向上
- (イ) 地域内の拠点施設を生かした生活支援機能の複合化に向けた企画・促進



【平成28年度に実施した施策を推進する主な事業と取組概要】 ※事業名の()内は平成28年度事業費

【ゆめづくり地域交付金事業（1億626万円）】

○地域課題解決のための事業に住民自らが取り組み、誰もがいきいきと輝いて暮らせる地域をつくりあげるための「ゆめづくり地域予算制度」における交付金を15地域へ交付しました。

【地域ビジョン推進事業（1,246万円）】

○地域と行政が協議しながら新たなサービスや価値を生み出すための「ゆめづくり協働事業」に15の全地域が取り組みました。

【都市内分権推進事業（29万円）】

○各地域における課題解決を図るために取り組まれている事業や組織づくりが、より効率的・効果的に行われるよう、地域づくり組織の組織力、経営能力を高めることを目指した「名張ゆめづくり協働塾」（講座や勉強会等）を10回開催し、延べ568人が参加しました。

【地域総合力向上事業（5,314万円）※地方創生加速化交付金】

○名張ゆめづくり協働塾にて、地域の課題解決に向けた円卓会議や地域カルテ研修などを行いました。また、集会所台帳整備など、地域間連携・地域資源の最適化に向けた取組を行いました。

○地域モデル事業として、将来のコミュニティビジネスを見据え、蔵持地域において地元産品による惣菜レトルト商品の開発を行いました。また、桔梗が丘地域においては、支え合い事業としての配食サービスの取組を実施しました。

○公民館の市民センター化に伴う市民センター看板工事や既存施設の改修等整備を行いました。

○地域別の人口構造や地域特徴を分析した地域カルテを作成・活用するとともに、市民センターの機能充実の一環として、名張地域づくりポータルサイト「eまちなばり」を立ち上げました。

<その他関連事業>

- ・市民活動推進事業(6万円)

【重要業績評価指標（KPI）指標】

重要業績評価指標（KPI）	基準値(年度)	平成27年度実績	平成28年度実績	目標値(目標年度)
人材発掘・人材育成を目的とした協働塾、市民活動支援センター事業等の参加者数	—	386人	256人	年間延べ100人以上 (H27~30)
隣近所や地域の人との交流があると感じている市民の割合	71.6%(H25)	70.1%	74.1%	75.0%(H30)

③「ライフステージに応じた支援ができるまち」の実現

【具体的な施策（計画内容）】

市外からの新しい人の流れに加え、生涯にわたって活躍できるまちの実現を目指し、既存施設及び住宅等の活用を中心に据え、地域のコミュニティ組織等による学習活動や多世代交流の実践、地域社会参画の機会創出・確保、また、健康支援、医療・介護サービス、在宅支援など様々なサービスをネットワーク型で提供する仕組みの整備（日本版CCRC（★）の検討）

（★）日本版CCRC：米国では、高齢者が移り住み、健康時から介護・医療が必要となる時期まで継続的なケアや生活支援サービス等を受けながら生涯学習や社会活動等に参加するような共同体（Continuing Care Retirement Community）が約2,000か所存在しています。日本版CCRCとは、都会の高齢者が地方に移り住み、健康状態に応じた継続的なケア環境の下で、自立した社会生活を送ることができるような仕組みや地域共同体を意味します。



【平成28年度に実施した施策を推進する主な事業と取組概要】 ※事業名の（ ）内は平成28年度事業費

○中高年齢者が地方等に移り住み、健康でアクティブな生活を送りながら必要に応じて医療・介護を受けることができる「生涯活躍のまち」（日本版CCRC）については、具体的取組は行いませんでした。今後は国や他の自治体の動きを注視しながら、必要に応じて調査・研究を行います。

【重要業績評価指標（KPI）指標】

重要業績評価指標（KPI）	基準値(年度)	平成27年度実績	平成28年度実績	目標値(目標年度)
名張市が「住みよい」「どちらかと言えば住みよい」と感じている市民の割合	81.9%(H25)	↓ 81.0%	↓ 80.2%	86.0%(H30)

平成28年度 地方創生関連交付金事業一覧

【加速化交付金分】

No	事業の名称	事業の目的	事業実績額（円） ※（ ）内は交付金	平成28年度の取組概要	重要業績評価指標（KPI）			
					項目	基準値 （年度）	平成28年度 実績 （目標値）	目標値 （目標年度）
1	「ええとこやんか三重」県と市町の移住促進事業	<p>移住希望者のニーズに応え、オール三重として様々なライフスタイルの選択肢を示し、県と市町が一体となり、それぞれの役割分担の下、移住定住促進事業を実施します。</p> <p>(1) 県は、オール三重としての情報発信を行うため、都市部で移住相談のワンストップ窓口を運営、戦略的なセミナー等のイベントを開催するとともに、県内での受入体制のレベルアップを図り、お互いの情報を共有するための研修会等を開催します。</p> <p>(2) 市町は、それぞれの市町のライフスタイルをPRし移住者を呼び込みます。</p> <p>(3) 名張市は三重県の西の玄関口として、関西圏を中心に地方暮らしを考えている人を本市に呼び込むため、県や市内の不動産業界、移住者支援団体等との協働により、移住希望者に対しての情報発信、また、様々なライフスタイルの選択肢を提供できる体制を整備し、三重県内への転入促進を図ります。</p>	1,338,364 (1,338,364)	<p>○都心部で開催される移住フェアに計8回参加して、出先での相談対応にも取り組みました。</p> <p>○移住・定住促進リーフレット「暮らしのまち名張」を制作、さらには近鉄大阪難波駅構内への大型電光ポスターの掲示、イベントへの出展などを通じて、本市の魅力発信に取り組みました。</p> <p>○市民が行う市外からの移住促進や若者の地元定着を促進するための取組に対し、その費用の一部を名張市が補助する提案公募型事業を実施しました。名張商工会議所が行う婚活事業「なばコン～名張でまち婚 in アスピア～」と、特定非営利法人あぐりの杜が運営する移住支援サイト「トカイナカ なばり」の開設の2事業に対し補助を行いました。</p>	移住相談窓口体制の整備及び移住相談窓口を通じた市外からの移住者数	—	35人 (10人)	20人 (H31)
2	隠（なばり）の農産品を活用した起業・創業支援事業	<p>米やブドウなど、少量多品目の良質な“隠（なばり）”の食材を本格的に発信するため、新たな販路開拓に取り組み市場規模の拡大を進め、雇用の拡大、農業の活性化、商業の活性化につなげます。また、農産品等を調査・研究し、名張の食材を国内外へ発信します。</p> <p>(1) 農業分野の有識者を雇用し、次世代への知識伝承や市内農産品調査の取組等を進め、今後設立予定の農産品加工等団体において、加工技術習得セミナーで育成した人材の雇用や障害者の雇用等を目指します。</p> <p>(2) 閉校小学校を有効活用し、名張市内の特色ある農産品を対象とした加工品の新商品開発を行います。</p> <p>(3) 将来的に行政からの補助金等に頼らずに、自走していく、自立していくための団体設立を目指し、農産品加工及び販路開拓に向けた市場調査や商品開発、加工品製造の基盤整備を進めます。</p>	21,465,658 (21,465,658)	<p>○地元の野菜やぶどう、いちごを使った加工品（7品目14商品）を開発しました。また、各種物産展への出展、都市圏での試食会、テストマーケティングを行い、新商品を含めた地元物産の販路拡大にも取り組みました。</p> <p>○6次産業の振興のため、農産品の加工と販路の開拓を行う事業者設立の取組を進め、平成29年4月には、旧滝之原小学校給食室を改修した「隠タカラモノ農産加工所」が法人運営により開業しました。</p>	<p>名張の農産品を活用した団体等設立</p> <p>団体等設立による雇用創出</p> <p>名張の農産品を活用した試作品開発</p>	—	1団体 (2団体)	延べ4団体 (H31)
						4人 (5人)	延べ10人 (H31)	
						5種類 (5種類)	延べ20種類 (H31)	
3	地域総合力向上事業	<p>足腰の強い持続可能な地域づくり組織への発展、さらには、住民自治による豊かな地域社会が実現されることを目指します。</p> <p>(1) 地域づくり組織の活動の現状把握と見直し、事業組立の支援を行います。</p> <p>(2) 地域特産品を活用した取組など、コミュニティビジネスを興すような地域づくり組織が提案する取組をモデル事業として実施していただきます。</p> <p>(3) 生涯学習拠点としての「公民館」を、地域福祉や雇用、コミュニティビジネスなどの地域活性化に繋がる事業実施が可能となる「市民センター」に機能の位置づけを変更します。この機能変更に伴い、一部の既存施設のバリアフリー化や増改築等を行います。</p> <p>(4) 市民センターの機能が高まるよう、住民への十分な啓発活動、ホームページ等を活用した広報活動などに取り組みます。</p>	53,136,775 (53,136,775)	<p>○名張ゆめづくり協働塾を年間10回開催し、地域の課題解決に向けた円卓会議や地域カルテ研修などを行いました。また、集会所台帳整備など、地域間連携・地域資源の最適化に向けた取組を行いました。</p> <p>○地域モデル事業として、将来のコミュニティビジネスを見据え、蔵持地域において地元産品による惣菜レトルト商品の開発を行いました。また、桔梗が丘地域においては、支え合い事業としての配食サービスの取組を実施しました。</p> <p>○公民館の市民センター化に伴う市民センター看板工事や既存施設の改修等整備をおこないました。</p> <p>○地域別の人口構造や地域特徴を分析した地域カルテを作成・活用するとともに、市民センターの機能充実の一環として、名張地域づくりポータルサイト「eまちなばり」を立ち上げました。</p>	<p>名張市が「住みよい」「どちらかといえば住みよい」とする市民の割合</p> <p>地域づくり組織・区・自治会などの地域づくり活動に参加したことのある市民の割合</p> <p>人材発掘・人材育成を目的とした協働塾、市民活動支援センター事業等の参加者数</p>	80.7% (H26)	80.2% (84.4%)	86.0% (H30)
						58.8% (H26)	58.4% (60.8%)	62.8% (H30)
						—	256人 (100人以上)	100人以上 (H30)

平成28年度 地方創生関連交付金事業一覧

【推進交付金分】

No	事業の名称	事業の目的	事業実績額（円） ※（ ）内は交付金	平成28年度（1年目）の取組概要	重要業績評価指標（KPI）					
					項目	基準値 （年度）	平成28年度 実績 （目標値）	平成29年度 実績 （目標値）	平成30年度 実績 （目標値）	平成31年度 実績 （目標値）
1	市民総活躍による『なばり元気のもとづくり』プロジェクト～人材を磨き、地域資源を生かし、もの・仕事をつくり、名張を元気にする～ 《事業期間》 H28～30	<p>(1) 次世代を担う若者の移住定住支援プロジェクト</p> <p>①創業、異業種連携、多角経営化による新たな事業創出を喚起・支援する体制の構築、近畿大学工業高等専門学校との連携による人材育成など新たな雇用創出、郷土産品に対する支援、幼少期からのふるさと学習の実施により、歴史・文化を通して子ども達の郷土愛を育み、本市に愛着を持てるひとづくりを目指します。</p> <p>②子育て中の女性の就労相談、セミナー開催等による就労意欲の喚起、企業訪問による啓発活動や女性の労働条件と企業のマッチング、子育てに配慮した職場づくりの支援、放課後児童クラブの充実等女性が働きやすい環境づくりの取組を行います。</p> <p>(2) 地域を生かした雇用創出プロジェクト 農産品の直売所の運営を起点に加工業者、レストラン等との農商工連携を推進し、地元農産品の地元での流通量の増加、地産地消など”食”を通じた雇用創出を図ります。</p>	16,528,006 (8,254,103)	<p>○雇用創出に向けた新たな産業を育成するための基礎調査と、市内直売所の売り上げ分析等を実施しました。</p> <p>○名張の特産品「かたやき」を活用して、高校生との共同企画によりお菓子の商品開発を行いました。また「食べてだあこ名張のお菓子おもてなし条例」制定にちなんだおもてなしイベントへ、地元企業と高校生による共同企画商品を提供しました。</p> <p>○女性の働きやすい環境づくり、意欲のある高齢者、女性等の社会参加につながる活動への支援をするため、こども支援センターと社会福祉協議会とが連携して、子育て支援員の養成等の事業（研修会、託児実習）を実施することができるよう福祉まちづくりセンターの設備等の整備を行うとともに、子育てをはじめ様々な活動を行うボランティアに係る総合的な情報発信及び子育て支援員研修修了者、子育てサークル等活動の場の提供などの支援に取り組みました。</p> <p>○待機児童対策と女性の働きやすい環境づくりに向け、桔梗が丘小学校区放課後児童クラブの施設増設を行いました。</p> <p>○『ふるさと学習「なばり学」』学習資料集編集委員会を立ち上げ、学習資料集上・下巻の第1稿を作成しました。</p>	交付対象事業の取組による雇用創出数	—	7人 (15人)	— (50人)	— (50人)	
					とれたて名張交流館の売上金額	1億1,859万円 (H27)	1億1,349万円 (1億2,200万円)	— (1億2,700万円)	— (1億3,200万円)	
					プロジェクト協力事業所数	—	15事業所 (10事業所)	— (25事業所)	— (25事業所)	
2	広域連携DMO設立による“新しい人の流れ”創出事業 《事業期間》 H28～31	<p>(1) 外国人や都市部住民、更には子どもなど体験など、様々な旅行者のニーズに対応したツアー企画の充実を図ります。</p> <p>(2) 外国人の視点による観光素材の発掘や商品化、ホームページやパンフレットによる情報発信などを行います。</p> <p>(3) 外国人誘客のビジネスモデルを構築し、空き家を活用した民泊施設の開業希望者を募り、改修支援や外国人旅行者対応の指導を行うなど、宿泊施設の充足を図ります。</p> <p>(4) 観光地域づくりの舵取り役として、広域連携DMOを立ち上げます。体験型・交流型ツアーを企画し、国内外のエージェントに販売するほか、市場調査に基づく事業計画の策定や観光事業者へのコンサルティング等、広域観光推進の中核組織として市村と連携し事業を進めます。</p> <p>(5) 観光客受入のための環境整備や、地域の魅力を発信する事業を実施し、旅行者受入環境を整備します。あわせて、都市部からの旅行者等への再訪の促進や継続的なシティプロモーション等の展開により、移住定住に繋げていきます。</p>	2,433,127 (1,216,563)	<p>○広域観光による外国人誘客の取組として、平成29年3月に在日の外国人を対象としたモニターツアーを実施し、45人に参加をいただきました。</p> <p>○旅行業経験者及び外国人（外国語指導助手経験者）を職員として雇用し、観光資源の調査と情報発信に努めました。そして、平成29年3月に、名張市と奈良県宇陀市、曾爾村、御杖村による広域連携DMO「東奈良名張ツーリズム・マーケティング」を設立し、誘客に向けた体制整備を行いました。</p>	名張市・宇陀市・曾爾村・御杖村の観光レクリエーション入込客数	3,074,691人 (H27)	3,118,174人 (3,090,000人)	— (3,140,000人)	— (3,240,000人)	(3,390,000人)
					赤目四十八滝溪谷を訪れた外国人の数	3,302人 (H27)	3,242人 (3,500人)	— (4,000人)	— (5,000人)	— (7,000人)
					広域連携DMOの旅行商品企画の延べ参加者数	—	45人 (0人)	— (500人)	— (1,000人)	— (1,500人)

人口等の動き

1. 人口及び世帯数の推移

	人口総数	年齢階層別 ※ () 内は構成比			世帯数
		0～14	15～64	65～	
平成 25 年	79,245	10,374 (13.1%)	48,357 (61.0%)	20,280 (25.6%)	30,494
平成 26 年	78,633	10,223 (13.0%)	46,949 (59.7%)	21,227 (27.0%)	30,675
平成 27 年	78,795	10,058 (12.8%)	46,149 (58.9%)	22,084 (28.2%)	30,595
平成 28 年	78,232	9,917 (12.7%)	44,964 (57.5%)	22,847 (29.2%)	30,885

※名張市統計書より (各年10月1日現在)

●国立社会保障・人口問題研究所の平成27年の名張市の推計人口は78,075人(実績値は+720人)

2. 人口動態の推移

(単位：人)

	自然増減			社会増減		
	出生	死亡	増減	転入	転出	増減
平成 25 年	682	738	△ 56	2,350	2,837	△ 487
平成 26 年	588	768	△ 180	2,156	2,569	△ 413
平成 27 年	595	774	△ 179	2,240	2,625	△ 385
平成 28 年	567	818	△ 251	2,180	2,506	△ 326

※名張市統計書より (各年1月1日～12月31日)

3. 全国・三重県・名張市の合計特殊出生率の推移

	全国	三重県	名張市
平成 25 年	1.43	1.48	1.56
平成 26 年	1.42	1.45	1.45
平成 27 年	1.45	1.56	1.45
平成 28 年	1.44 (概数)	1.51 (概数)	—

※県伊賀保健所年報データより (名張市のH28 データはH29/12 中旬確定予定)

4. 年齢階層別 転入者数・転出者数の推移

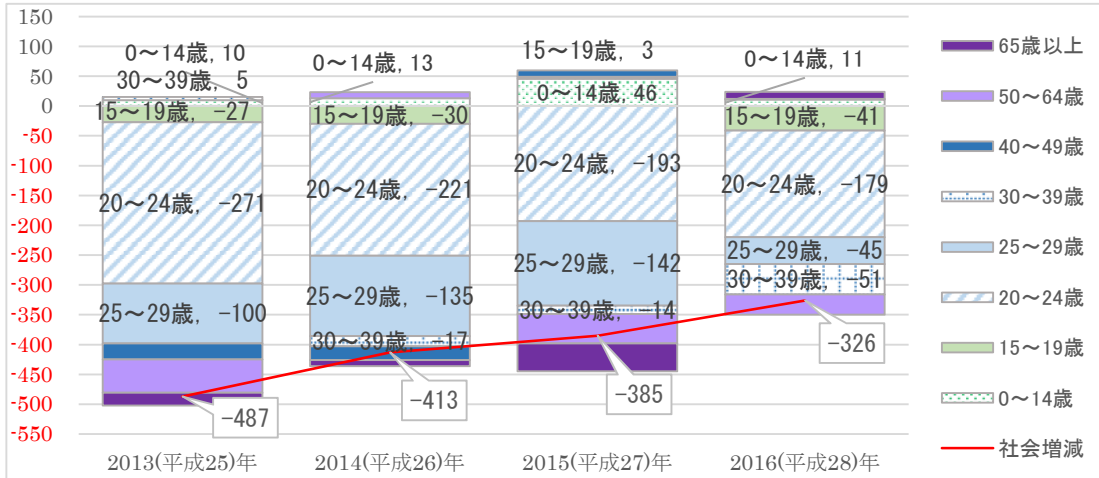
(単位：人)

	転入 出別	計	年齢階層					
			0～14	15～29	30～39	40～49	50～64	65～
平成 25 年	転入	2,350	305	789	608	246	215	187
	転出	2,837	295	1,187	603	273	271	208
	計	-487	10	△ 398	5	△ 27	△ 56	△ 21
平成 26 年	転入	2,156	277	690	574	254	195	166
	転出	2,569	264	1,076	591	277	185	176
	計	-413	13	△ 386	△ 17	△ 23	10	△ 10
平成 27 年	転入	2,240	304	717	564	283	199	173
	転出	2,625	258	1,049	578	272	248	220
	計	-385	46	△ 332	△ 14	11	△ 49	△ 47
平成 28 年	転入	2,180	268	738	498	301	193	182
	転出	2,506	257	1,003	549	300	227	170
	計	-326	11	△ 265	△ 51	1	△ 34	12

※名張市統計書より (各年1月1日～12月31日)

5. 年齢階層別転入・転出状況

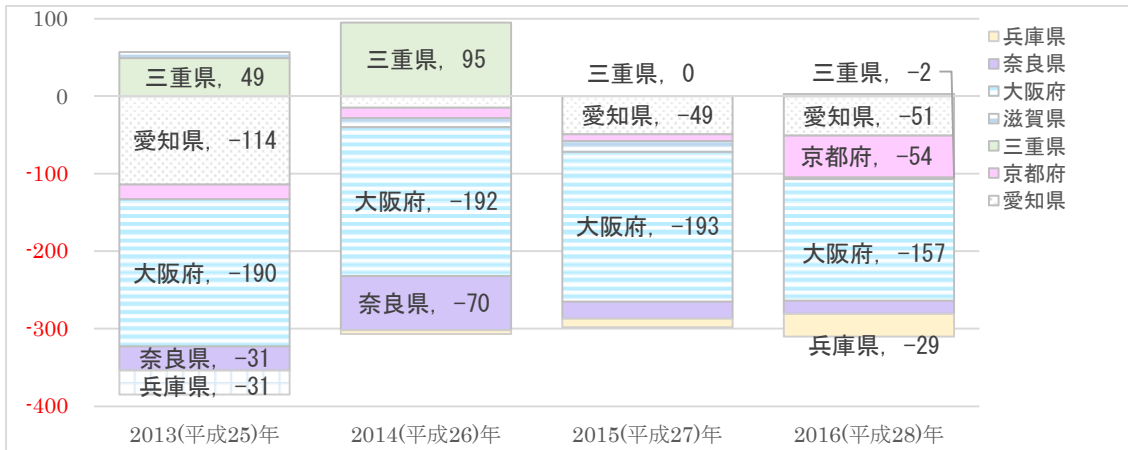
(単位：人)



※名張市統計書より (各年1月1日～12月31日)

6. 直近4か年度の近隣府県別転入・転出状況

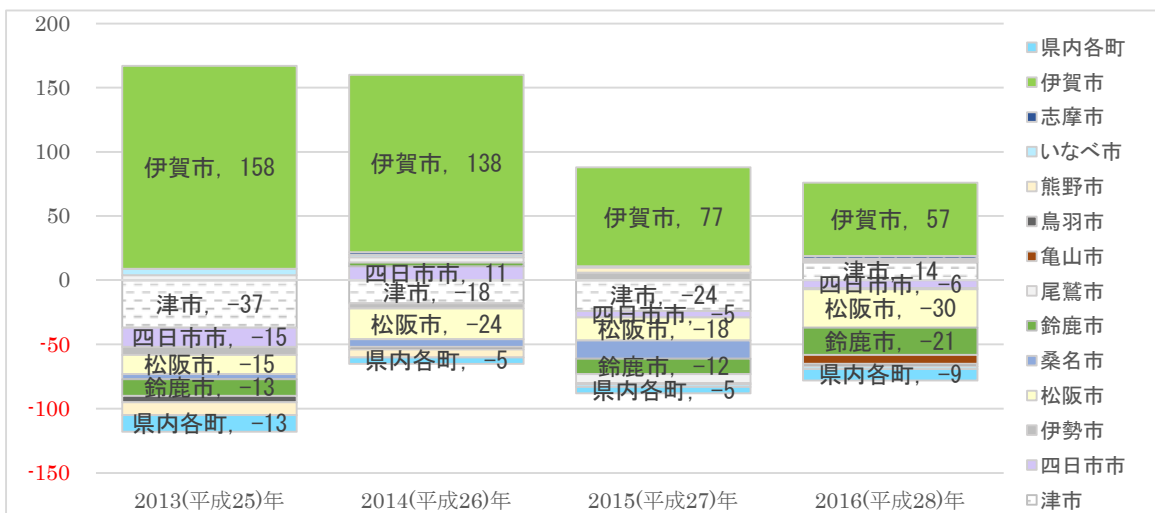
(単位：人)



※住民基本台帳データより

7. 直近4か年度の県内他市町別転入・転出状況

(単位：人)



※住民基本台帳データより

8. 平成27年国勢調査 三重県市町別人口（増減率降順）

平成28年10月26日 三重県公表

順位	市町名	平成27年	平成27年		平成22年	増減数	増減率	平成27年 人口性比
			男	女				
	三重県計	1,815,865	883,516	932,349	1,854,724	-38,859	-2.1	94.8
1	朝日町	10,560	5,229	5,331	9,626	934	9.7	98.1
2	川越町	14,752	7,577	7,175	14,003	749	5.3	105.6
3	四日市市	311,031	154,674	156,357	307,766	3,265	1.1	98.9
4	玉城町	15,431	7,406	8,025	15,297	134	0.9	92.3
5	菰野町	40,210	19,584	20,626	39,978	232	0.6	94.9
6	いなべ市	45,815	23,220	22,595	45,684	131	0.3	102.8
7	桑名市	140,303	68,740	71,563	140,290	13	0.0	96.1
8	明和町	22,586	10,738	11,848	22,833	-247	-1.1	90.6
9	東員町	25,344	12,353	12,991	25,661	-317	-1.2	95.1
10	鈴鹿市	196,403	97,500	98,903	199,293	-2,890	-1.5	98.6
11	亀山市	50,254	25,226	25,028	51,023	-769	-1.5	100.8
12	名張市	78,795	37,908	40,887	80,284	-1,489	-1.9	92.7
13	伊勢市	127,817	60,467	67,350	130,271	-2,454	-1.9	89.8
14	津市	279,886	135,718	144,168	285,746	-5,860	-2.1	94.1
15	松阪市	163,863	78,548	85,315	168,017	-4,154	-2.5	92.1
16	多気町	14,878	7,275	7,603	15,438	-560	-3.6	95.7
17	度会町	8,309	3,975	4,334	8,692	-383	-4.4	91.7
18	紀宝町	11,207	5,220	5,987	11,896	-689	-5.8	87.2
19	御浜町	8,741	4,071	4,670	9,376	-635	-6.8	87.2
20	伊賀市	90,581	43,932	46,649	97,207	-6,626	-6.8	94.2
21	木曾岬町	6,357	3,153	3,204	6,855	-498	-7.3	98.4
22	志摩市	50,341	23,336	27,005	54,694	-4,353	-8.0	86.4
23	大台町	9,557	4,520	5,037	10,416	-859	-8.2	89.7
24	大紀町	8,939	4,183	4,756	9,846	-907	-9.2	88.0
25	鳥羽市	19,448	9,082	10,366	21,435	-1,987	-9.3	87.6
26	尾鷲市	18,009	8,382	9,627	20,033	-2,024	-10.1	87.1
27	熊野市	17,322	7,946	9,376	19,662	-2,340	-11.9	84.7
28	紀北町	16,338	7,579	8,759	18,611	-2,273	-12.2	86.5
29	南伊勢町	12,788	5,974	6,814	14,791	-2,003	-13.5	87.7

※市町名は平成27年10月1日現在。

※平成22年の数値は、平成22年国勢調査結果をその後行われた市町村合併及び境域変更に基づいて組み替えた数値。

※人口性比とは、女性100人に対する男性の数をいいます。（人口性比＝男性／女性×100）

5. 「名張市 まち・ひと・しごと創生 総合戦略」の効果検証の取組

(1) 市民意識調査の実施

①調査の概要

調査地域	名張市全域
調査対象	市内在住の18歳以上の者
標本数	2,030人
抽出方法	住民基本台帳より無作為に2,030人を抽出
調査方法	郵送による発送・回収
調査期間	平成29年4月22日(土)～平成29年5月12日(金)
調査主体	名張市 総合企画政策室

②回収結果

標本数	2,030人
実回収総数(率)	926人(45.6%) 【平成29年6月2日時点】
有効回収数(率)	804人(39.6%) 【平成29年6月2日時点】
無効回答数	122人(うち半回答108人、無回答14人)

※この調査結果については、各プロジェクトに掲げる成果指標の一部に活用しています。

(2) 名張市地域活力創生会議での意見聴取

①実施日時・場所

平成29年6月28日(水) 15時～17時 名張市役所2階 庁議室

②実施体制

民産学官労言官の分野から選出した、次の11名を構成員とする。

井上 早織	NPO法人 あぐりの杜、株式会社アグリー	竹島 美加子	保育施設長会連絡協議会
大石 成子	有限会社モンパクトル	畑 和伸	一般社団法人 青蓮寺・百合が丘地域づくり協議会
越智 友美	株式会社アドバンスコープ	山崎 一男	伊賀南部農業協同組合
金 相俊	近畿大学 経営学部	吉川 隆	近畿大学工業高等専門学校
佐々木 達也	名賀地区労働者福祉協議会	亀井 利克	名張市
杉岡 雪子	イーナバリ 株式会社		

※敬称略

③実施方法

KPI（重要業績評価指標）の達成状況に加え、総合戦略に係る取組や成果等を報告し、公開により意見聴取を実施した。

④主な意見・提案

- 「人口減少」について、増えてはいないが何とか歯止めが掛かっていると感じる。しかし、15～29歳までの転入転出の差が大きい。原因は「就職」「進学」にあると考えられる。
- 就職に関して、地元での正規社員の募集が少ない様子である。行政から企業への働きかけで地元就職が増えれば、30代以上の減少にもある程度歯止めがかかるのでは。
- 名張版ネウボラの取組などの子育てのしやすさ、そして教育について、ひとつひとつは素晴らしく人を呼び戻す施策としても良い。名張に戻って子育てをしてもらう。さらに、その子ども達の転出を抑制するためには、地場産業が必要。若者による地場産業の創造、そして食・環境・人の良さ、これらがいまって、いつまでも住みたいという魅力が生まれる。
- 空き家の産業への活用について、ただ住むためだけでなく、小さい商店でも集まれば産業を作り上げることが出来る。
- 子育て世代の女性の活躍の場について、事務職の希望が多い割に事務の仕事は少ない、また中小企業への希望が弱く、多くは大企業への就職を希望するなどミスマッチが起きている。そこで、求職者が中小企業へと目を向ける方法が必要。また、求職者に対し、企業が求める技術を習得できる機会があれば、雇用と人とのマッチングが叶う。
- 空き家プロジェクトにおいて、商業の斡旋の取組はあるが、大型商業施設を誘致してはどうか。若者を地元に残める効果もあり、実際にショッピングモールなどを中心にまちが活性化事例もある。
- 若者の転出抑制を図るため、市外への道路アクセスの悪さも解消する必要があると思う。
- 6年前に大阪から移住し、新規就農を始めた。名張の印象は暮らしやすいところ、他の地域だと観光のまちなど特色があるものだが、名張は特色のないところが良いところ。中途半端だが、言い方を変えればハイブリッドで田舎暮らしも都会暮らしも両方満喫できる。大阪、名古屋からも近く、色々サミット等も出来るんじゃないかと思っている。
- 近年名張へ移住し、古民家カフェやIT起業、シェアハウスなど小商売をする人が増えている。これら小さなビジネスを色々集め面白いマップを作るなどして全国発信してはどうか。
- 6次産業を一から始めるには大きな資金が必要となるが、名張市が6次産業の加工を行う会社を立ち上げたおかげで、農家でも加工食品が出来る環境が整った。
- まちな案内板が外国語標識でないところも多い。外国人誘客に向けた外国語の案内が欲しい。
- 名張の強みは「福祉」。同じような問題を色々な国で抱えている。制度的な差はあっても超高齢社会の問題そのものは変わらない。そこで「暮らし」と「福祉」を1つのテクニカルビ

ジターツアーとして組んで、発信すればかなりの強みと考える。空き家対策や農業などの問題も同じで、その問題の答えとして農福連携の取組のモデル化なども必要だろう。農福連携、教福連携の取組などを紹介、発信するところから始め、知名度がアップすればさらに関心を持ってもらえるといった好循環が創られる。大阪からも近く、また広域連携DMOも立ち上げており、やり方によっては国内だけでなく海外からも知名度が上がるのではないかな。

- 外国人から“本当の忍者とは何か？”という事を最近よく言われる。忍者は普段は生活者であり見えないもの。また、名張には伊賀三上忍百地家の直系もおられる。直接会えなくても良い。簡単に合ったり見たりできると価値もなくなる。赤目の環境も素晴らしく、ブラッシュアップし取組次第ではインパクトもある。忍者パフォーマンスは伊賀、というスタンスがあるなら、「名張」は「隠れる」とも書く、名張ではリアルな隠れスピリッツの忍者体験を。
- 昨年度は、「食べてだあこ名張のお菓子おもてなし条例」の制定もあり、市内PRイベントへ出展した。今年5月には伊勢で開催された第27回全国菓子大博覧会に出展しPRしたが、この取組も地方創生のひとつかと思う。
- 平成28年度に実施した施策はすぐに結果が出るわけでもなく、その都度検証等もしているだろうが、これら取組を通じ、もう少し足りなかった、方向性が違ったなどあれば知りたい。
- 小中一貫教育と5歳児の義務教育化について少し不安。近年、子育ての難しさが言われ、社会的にも核家族化などの影響もあり、子どもへの愛情の持ち方などの子育てが伝承されにくい。幼児教育では心の育ちを大事に創造性豊かに育てたい。5歳児は友達との関わりなどが確立していく段階であり、社会性を育てる最も重要な時期でもある。
- 5歳児の義務教育化では、全ての5歳児に保育所・幼稚園に入っただき、週に1度は小学校の先生の協力により、座って話を聞くなどの習慣を身に付けてもらいたい。そして小学校へ入学した後、1年生の時点からスムーズな授業が出来ることを理想としたい。
- 本年度はいくつかの小規模保育園を開設し、待機児童も随分解消された。次は3歳児の受け皿が課題だと思っている。
- 将来的に地域がどうなっていくかを考え良い地域にしたい。多くの人に地域へ移住してもらうには、まずは地域の教育や環境がどうかといった点が大切。例えばいつも綺麗に整備されたまちは良い地域だとの印象を得られる。地域活動は地域の価値を上げることにも繋がる。
- コミュニティスクールの実践としての教育の取組（学習支援としての「ほめほめ隊」）について注目もいただいているが、今やろうとしているのが「83（はちさん）運動」。午前8時と午後3時に、地域全体で家から1歩出て子どもを見送り、また迎えるといった見守りができる地域にしたい。そしてこれを名張市全体に広げていきたい。
- 農業について、今非常に問題になっているのは山間部農地の耕作放棄。耕作せずにおいているところが非常に多くなっている。耕作しないことは、0ではなくマイナスとなっている。景観の問題もあり、地域に残された人の協力でかろうじて維持しているが、一人でも農業者を増やす必要があり、ある程度の規模と多品種で行えば、採算は取れなくないと思う。

6. 平成29年度「名張市 まち・ひと・しごと創生 総合戦略」の取組概要（計画）

（1）元気創造プロジェクト

昨年開催された伊勢志摩サミットや、今年、伊勢で開催された全国菓子大博覧会、さらには昨年、議員提案により、「ものづくり基本条例」や「“食べてだあこ”名張のお菓子でおもてなし条例」が制定されたことを契機に、地域産業の振興と名張の元気の創造、そして情報発信に取り組んでいきます。

具体的には、地域資源を生かした6次産業化の取組として、名張商工会議所が進める「ワインづくりプロジェクト」に関し、旧国津小学校をその拠点施設とすべく、改修整備を行います。また、空き家・空き店舗を活用した若者たちの起業・創業の支援とともに、女性や若者の働きやすい環境づくりや、生涯現役で働くことができる環境づくりに努め、地域の元気を支え、将来を担う人材の育成に取り組めます。

また、観光振興の取組として、奈良県宇陀市、曽爾村、御杖村との連携による広域連携DMOに、新たに山添村、東吉野村とが加わり、外国人観光客等をターゲットにさらなる圏域への誘客を図ります。また、歴史、文化、健康づくり、スポーツ等の地域固有の資源を生かした体験型旅行を企画し、交流人口の拡大を目指します。さらには、移住を促進・支援する体制の強化を図るとともに、“暮らしのまち なばり”の積極的な情報発信に努め、人や企業から選ばれる活気に満ちたまちの実現を目指した取組を進めます。

施策を推進する主な事業	平成29年度事業予算額
ふるさと応援推進事業	2,087.5万円
地域活力創生事業	253.7万円
農業次世代人材投資事業	1,275万円
地場産業振興事業	746.2万円
新雇用創出事業 ※地方創生推進交付金	4,059.6万円
起業・創業拠点整備事業 ※地方創生拠点整備交付金(平成28年度繰越)	8,563.3万円
地場産業雇用促進・人材育成事業	90万円
観光戦略推進事業	953.7万円
広域観光連携推進事業 ※地方創生推進交付金	1,300.5万円

(2) 若者定住促進プロジェクト

子育て家庭の負担軽減を図るため、乳幼児のインフルエンザ予防接種費用の一部助成を行うとともに、安心して産み育てる環境を提供するため、「小児救急医療センター」において、引き続き24時間365日の小児二次救急医療を行います。小児医療費の窓口負担を平成30年4月から無くすための準備も進めます。また、平成31年度の産婦人科開設に向けた準備にも取り組みます。

待機児童対策への取組としては、保育施設の整備や地域型保育事業の推進のほか、私立幼稚園の認定こども園化を支援し、保育の受け入れ枠を拡大します。さらには、子育て支援員研修の実施をはじめ、学校、地域が一体となって子どもを育てるコミュニティスクールの取組を進めます。

また、学校図書館を地域の皆様に開放することで、子どもの居場所づくりや交流の場づくりを実現しながら、家庭的に不利な環境にある子どもの学習支援を実施します。子どもたちの学校生活での安全確保と学習環境の向上のため、小中学校各教室への空調設備の設置に着手します。

若い世代が安心して働くため、ワーク・ライフ・バランスの実現に向け「まちじゅう元気！イクボス宣言なばり」を行い、オール名張で働き方改革を推進していきます。

空き家バンクやリノベーション支援制度も継続的に推進し、若者世帯等の移住・定住の促進に努め、産み育てるにやさしいまち“なばり”の実現と、若者が住んでみたい、愛着を抱きいつまでも住み続けたいと感じるまちを目指した取組を進めます。

施策を推進する主な事業	平成29年度事業予算額
子ども医療助成事業(市単通院・入院分)	2,200万円
子ども発達支援推進事業	401.4万円
病児・病後児保育事業	679.7万円
第3子以降の保育料無償化事業	5,800万円
民間保育所等施設整備補助金	4億6,484.4万円
地域型保育事業(家庭的保育、小規模保育、事業所内保育)	2億9,375.7万円
放課後児童クラブ待機児童解消事業 ※地方創生推進交付金	88万円
地域福祉人材育成促進事業 ※地方創生推進交付金	700万円
名張版ネウボラ事業	399.6万円
空家リノベーション支援事業	500万円
空家対策事業	1,695.2万円
未来へつなぐ学びの支援事業 ※地方創生推進交付金	84万円
ふるさと学習「なばり学」創設事業 ※地方創生推進交付金	300万円
教育研究事業	535万円
小中一貫教育推進事業	95万円
小中学校空調設備整備事業	2,820万円

(3) 生涯現役プロジェクト

地域づくりで培われた絆や信頼関係などで構成される“ソーシャルキャピタル”という資源をより一層活用して、健康づくりに携わる様々な人との連携強化のうえ、市民総ぐるみで「健康で元気なまち」を目指します。

具体的には、食育の推進をはじめ、健康づくりの習慣化を促進させる「ケンコー！マイレージ」の本格実施、特定健診・がん検診の受診率向上や生活習慣病の重症化予防等の取組、地域づくり組織とともに取り組む「まちじゅう元気!!プロジェクト」を推進します。併せて、健康づくりや介護予防の人材育成を図るとともに、スポーツを通じた健康づくりを推進するための施設整備やソフト事業にも取り組み、いつまでも健康で生きがいをもって地域社会の担い手として活躍できるまちを目指します。

また、市民活動の活性化と、活力と賑わいのあるまちを再興すべく、拠点施設の改修工事にも着手します。

「地域福祉教育総合支援システム」については、福祉、教育等の様々な分野に係る複合的な課題にワンストップで対応できるよう、地域をはじめ、関係行政機関や各種団体など、多機関協働によるネットワークをより強化して、包括的・横断的な支援を行うことで地域福祉の増進に努めます。

施策を推進する主な事業	平成 29 年度事業予算額
ゆめづくり地域交付金事業、地域ビジョン推進事業	1億2,405.7万円
市民活動活性化施設整備事業 ※地方創生拠点整備交付金(平成28年度繰越)	4,580.3万円
地域福祉教育総合支援システム構築事業	1,275万円
地域力強化推進事業	836万円
がん対策事業、生活習慣病予防重点プロジェクト事業	1億1,357万円
健康づくり事業(まちじゅう元気!!プロジェクト推進事業) ※地方創生推進交付金	1,348.6万円
総合型地域スポーツクラブ創設支援事業	120万円
市民陸上競技場スタンド改修事業 ※地方創生拠点整備交付金	5,279.9万円
スポーツ活動振興費 ※地方創生推進交付金	30万円

7. 「名張市 まち・ひと・しごと創生 総合戦略」の改訂

「名張市 まち・ひと・しごと創生 総合戦略」は、取組の効果検証結果を踏まえて毎年度点検を行い、必要に応じて見直しを行うこととしており、この度、制度の改正や事業展開等に合わせて次のとおり重要業績評価指標（KPI）の見直しを行います。

また、各プロジェクト内に掲載する「施策を推進する主な事業」は、平成29年度を取組にあわせて再点検を行い、必要な改訂を行うこととします。

（1）元気創造プロジェクト

① なばり元気のもとづくり ～人材を磨き、地域資源を生かし、もの・仕事をつくり、名張を元気にする～

※新たに次の指標を追加する

重要業績評価指標（KPI）	基準値(年度)	目標値(目標年度)
新雇用創出事業活用による雇用創出件数	0件 (H28)	延べ115件 (H30)

（2）若者定住促進プロジェクト

② ライフスタイルの多様化を踏まえた暮らしの提供

※以下の2つの指標の内容を変更する

重要業績評価指標（KPI）	基準値(年度)	目標値(目標年度)
国の事業等を活用した空き家住宅の流通促進 国・県事業を活用した空き家住宅の流通促進	1件 (H26)	延べ30件 (H31)
農業次世代人材投資資金給付件数 青年就農給付件数	5件 (H26)	延べ30件 (H31)